

紙カルテ電子ファイリング事例

医院・クリニック様

導入の狙い

開業以来の過去カルテを電子化して患者番号で検索

導入病院の情報

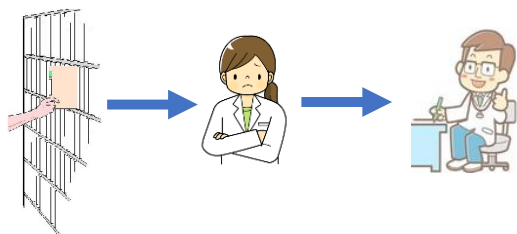
患者数：24,000人
診療科目数：4（内科、小児科、胃腸科、循環器科）
電子カルテ：BRAINS

クリニック

2009年8月導入



導入前の運用



- ◆ 開業以来の全ての紙カルテを院内2階の倉庫にダンボール箱に入れて保管。
- ◆ 電子カルテを新たに導入。
- ◆ 医師の要請で過去カルテが必要となった場合は、倉庫から持ち出し。

導入前の課題

膨大な紙カルテを保管



- ◆ 膨大な紙カルテを保管しており、カルテ庫の保管スペースが手狭になってきている。
- ◆ 電子カルテを導入していても、過去の紙カルテや各種検査所見、紹介状など院内で発生する大量の紙文書で、ペーパーレス化には程遠い。
- ◆ 職員の中にはPCの操作に不慣れな人も多く、操作が複雑だと職員の採用に支障を来すため、なかなか電子化には踏み切れない。



- ◆ 誰でも簡単に操作ができ、容易に電子化保存できるシステムを探していた。

顧客の要件

- ◆ 過去カルテを電子化して、倉庫の保管を無くしたい。
- ◆ カルテの閲覧は、患者番号を指定して閲覧できる事。
- ◆ 電子カルテから新患情報を転送し、スキャン時の入力作業を極力無くせる事。
- ◆ 院内で発生した文書はスキャンして電子化し、患者番号で検索できる事。
- ◆ システムの操作は、誰でも抵抗感なく使える容易性と操作性を備えている事。

導入のポイント

- ◆ 医師が過去のカルテを容易に閲覧できるシステムを導入する。

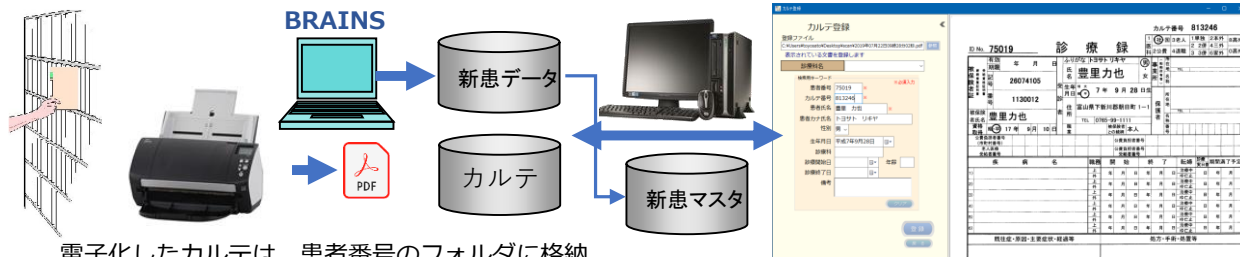
導入後の運用

紙カルテを電子化して患者番号でカルテを検索

カルテの登録

過去カルテや副カルテをスキャナーで電子化

カルテ登録画面



電子化したカルテは、患者番号のフォルダに格納

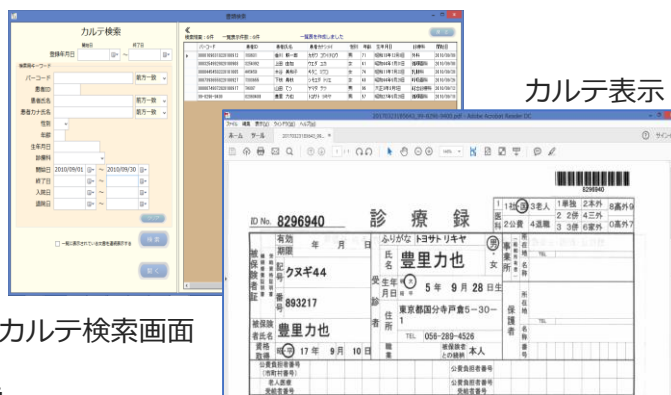
- ◆ BRAINSで新患登録時に新患データを転送する。
- ◆ 新患データの並びは、患者番号,患者カナ氏名,患者氏名,生年月日,性別
- ◆ 新患データを元に患者マスタへ追加登録
- ◆ 患者番号を入力すると、患者マスターを参照して患者情報が登録画面に表示される。
- ◆ 文書の種類として診療録,経過記録,点数表,保険証写,検査記録,紹介状,その他を選択
- ◆ スキャンしたカルテは、患者番号ごとのフォルダにカルテ番号.pdfのファイル名で格納。
- ◆ 患者フォルダは3階層：万台-千番台-百番台-患者番号

カルテの検索

患者番号,患者氏名等でカルテを検索



検索用データベース



カルテ検索画面

カルテ表示

- ◆ 患者番号,氏名 等でカルテを検索。
- ◆ 検索結果は一覧表示され、一覧から閲覧したいカルテを選択。
- ◆ 選択されたカルテがAdobe Acrobat Readerで表示される。
- ◆ 利用部門は、受付（2台）と診察室（2台）の計4台。

導入後の効果

- ◆ 電子化されたカルテを患者番号などで容易に検索できるようになった。
- ◆ 診療室で過去カルテが検索できるため、職員の負担が大幅に軽減できた。
- ◆ 医師が過去の病歴を容易に過去のカルテで確認できるようになり医師の負担も軽減できた。
- ◆ 新患データが電子カルテから転送されてくるため入力作業が大幅に軽減でき、受付窓口担当者の負担がかからない。

導入までの日数

導入したその日から運用が可能となった。

お問合せ先：下記のお問合せフォームからお問合せください。

<https://www.tssol.jp/contact/karute/>

開発元 株式会社豊里システムソリューション

〒112-0005 東京都文京区水道2-11-5

<http://www.tssol.jp>

